

第47回歴史講演会

相次ぐ中学生の自殺。何故死を選ぶのか。命を大切にしないのか。

時を超え、今よみがえる先人からのメッセージ

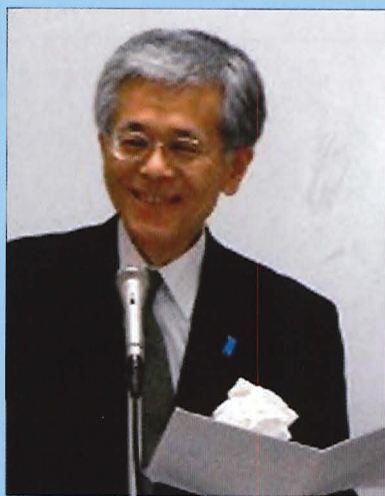
逆境に負けない・くじけない

一宮尊徳（金次郎）



二宮金次郎は十四歳の時に父を失い、十六歳で母を亡くした。兄弟と離れ、一家離散の過酷な境遇となったが、失望落胆することなく、父母を恨むどころか、生涯、母の恩恵に感謝した。自分では貧乏かつたので、先生に学んだことはなく、金次郎は貧乏かつたので、先生に学んだことはなく、立派な家を再興し、請われて藩や町を復興するほどの偉大な人物となったのである。

呼ばれる一大指導者となった「農村復興の神様」ときつと皆さんの「人生の指標」「生きる力」となることでしょう。



講師：岡田幹彦氏

(日本政策研究センター主任研究員)

■プロフィール

昭和21年北海道生まれ。国学院大学中退。学生時代より日本の歴史、人物の研究を続け、月刊『明日への選択』に人物伝を連載中。「歴史街道」「歴史通」などにも寄稿。平成21～22年産経新聞に「元気のでる歴史人物講座」を連載。全国各地で歴史人物の講演活動を行う。

■著書『東郷平八郎』『乃木希典』『小村寿太郎』（展転社）、『日本を護った軍人の物語』（祥伝社）、『日本の誇り103人』（光明思想社）他多数

とき

11月3日(金・祝日)

午後2時～4時30分

ところ

エル・パーク仙台

5階・セミナーホール
仙台三越定禅寺通り館

参加費

一般1,000円・学生無料

主催

宮城ビジョンの会

事務局 TEL022(285)3383

後援

仙台市教育委員会・宮城県教育委員会・産経新聞社東北総局





生きる力と偉人伝

生きる力とは何でしょうか？

生きる力は、「命とは大切な物だよ」と繰り返し言い聞かせれば身につくのでしょうか？たとえ困難に直面しても自ら命を絶つような事をせずに乗り越えようと頑張れるでしょうか？

いくら命の大切さを知識で知っていても、自分の心に生きるエネルギーが湧いてこなければ、生きる希望は持てなくなってしまいます。生きる力は「教える」のではなく種をまき育てる事で初めて人間の心に育つのではないのでしょうか？四〇年間空手道と武士道の指導を行っている瀬戸塾の瀬戸謙介師範はこの様に仰っています。

誠の道を守る事

偉人と言われる人の一生に共通して言える事は誰もが「誠」を貫いていることです。偉人伝を読むと彼

らの一生は決して平坦ではありません。次から次へと難問にぶつかります。しかし彼らはその困難に対して、小手先の誤魔化しではなく全身全霊を傾けてぶつかっています。そして、彼らには自分の欲得の為ではなく「世の為人の為に役に立ちたい」という思いが有るからこそ後世までその人の偉業が伝えられ尊敬されているのです。

後世に名が残ると言うことは、偉業を通じてその人の精神、エネルギーが伝わってくるという事なのです。その精神とは自己の欲（小欲）をうち払い、人の為になる大欲を求めるところにあります。大欲とは自分の欲望を抑え、多くの人々の悩み、苦しみに思いを馳せこれを救わずにはいられないという絶大なる欲望のことです。つまりは天下国家のために身を投げ出すという事です。国を思い、家族を思い、友人を思い、世を思う。その思いの深さが人々の心を感動させ、読む人の心にエネルギーを与えるのです。

立志

人は偉人の生きざまや業績を学び感動することで、自分のような凡人には遠い出来事のように思ったとしても、偉人に憧れ自分の人生の指針として一歩でも近づきたいと

思うようになります。

世の為人の為に自分はいかなる道を選んで役立つ人間になり、命を全うするのか、それを十四才頃までに真剣に考えるのが「立志（りっし）」です。人間は、志を立てそれに向かつて行動した時に初めてその人の真価が現れてきます。志のない人間は、その時に成功したと見られても結局その人の足跡は時代と共に跡形もなく消え去ってしまいます。「志」と「野心」とは区別しなければいけません。野心は自己中心的なものであり、利益を追い、名を高め世間での地位を獲得することだけが目的であり「真の志」とは大きな違いがあります。

日本の歴史に偉人として名を馳せた先輩達は、その志が正しかったから何十年も何百年も語り継がれ、愛されているのです。彼らの人生を学ぶ事で、正しい志のあり方を学び、彼らに憧れる時、沸々と心の底から生きるエネルギーが湧いてくるのです。

人格の形成に欠かせない要素の一つに反省があります。反省をするには良心が無ければ反省の心は生まれてきません。その良心を養うには偉人の残した偉大な足跡、言葉を学び、考え、同時に我が身を振り返ることにより反省が促され良心が

育ちます。

戦後教育を受けた七十才以下の日本人は、日本の建国の理念、神話の物語、日本国の国柄、日本が世界で一番永い歴史を継承している国である事、そして皇室の歴史とこれらの関係について学校で教えられなくなった事は非常に残念な事です。

日本の偉人は小さい頃からこれらを先ず勉強し、家族の為、子孫の為、愛する国の為に一度しかない自分の人生を、命を輝かせたのです。その彼らの偉業のお陰で今を生きる我々日本人の幸せがある事を忘れてはなりません。

「命を大切にする」というのは、「死なない」と言うことでは無く、命を輝かせて一度きりの人生を「生きる」と言うことです。命を輝かせて大志の為に生ききった「偉人伝」を学ぶことこそが「生きる力」を養う事になるのです。」以上

